

○震災から3か月が間近

6月11日(土)に、東日本大震災発生3か月を迎えます。東北教区では、この日、震災のすべての犠牲者を覚えての記念聖餐式(レクイエム)を、主教座聖堂仙台基督教会信徒会館(同礼拝堂は、震災以降余震による損壊の危険があるため使用されていません)にて、加藤博道 東北教区主教の司式、植松誠 首座主教の司式で捧げられます。北海道教区の諸教会においても、6月5日、又は11日の主日礼拝で、「東日本大震災のための祈り」を用いるなどして、祈りを共にいたしましょう。

○釜石での働きに、池田司祭が着任

6月2日より、池田亨司祭(札幌キリスト教会)が釜石に着任。ボランティアとして海老原祐治兄が加わりました。下澤司祭は1か月間の現地でのお働きを終え、6月4日に帯広聖公会に帰任されました。また下澤依子姉は、20日間にわたり下沢司祭と共にお働き下さいました。雨宮春子姉は、5月22日~29日看護師・助産師の資格を生かし、避難所の市内体育館に常駐。夜間の見守りなどを避難所生活者の健康管理の働きをされ、並行して、聖公会の働きにも参加して下さいました。

○【下澤司祭による釜石通信】 2011年6月1日 発

- 【5月22日(日)】午後4:00、事前に仮設住宅にチラシを配布し、震災で亡くなった方々を悼む「追悼の夕べ」を行うが、出席者はなかった。用意していた花束、帯広の信者さんから提供された買い物バッグを仮設で配布、これは喜ばれた。殺伐とした仮設住宅の暮らして、多くの人が花束を喜んで下さった事で、私たちが見過ごしてきた被災者の心の動きに気づかされる。栃木県のアジア学院から出荷、東京教区を経て送られた卵2千個、豚肉26キロが到着、市の災害対策本部に届けた。
- 【5月23日(月)】午後、買い物バッグをもって南へ下る。本郷という地区の屯所でぜひ欲しいというので17個全部を置いてくる。帰りの釜石への入口は大渋滞。500メートルに30分以上かかる。
- 【5月24日(火)】仙台より加藤主教、管区宣教主事の中村司祭、大町司祭、九州教区のボランティア 山本さん来訪、理事長、園長を交えて今後の方策を確認する。北海道教区がこの地で活動を継続することが、決して一人よがりではなく、釜石の方々から期待されての事と分かり安心する。その上で、保育園での子どもたちのことを第1に考え、今後は保育園の外に拠点を設ける可能性に含め支援を継続する事になる。
- 【5月25日(水)】午前中、大町先生と共に鶴住居へ。先生のご親戚が安否不明になる前に住んでおられた住宅跡を訪ねる。原型を留めない住宅地で記念になる品を探し、かろうじて残っていた小さな庭草の芽を掘り出し、先生は持って帰られた。鶴住居から14キロほど上流の橋野地区に、北海道を中心に自然学校などに取り組んでいるNPO「ネオス」が入って活動をしており、そこを訪ねる。今後、機会があれば働きにおいて協力していきたいと思う。
- 【5月26日(木)】午後、JOCS(キリスト教海外医療協力会)の働きで、避難所で看護師として詰めている雨宮春子さんが来る。仮設での買い物バッグの配布を手伝ってくれる。
- 【5月28日(土)】朝、飯野先生や当時のボランティアの方々の方が物資を運んでいた大石地区の屯所から来訪、ホタテを届けてくださる。感謝。大石地区の支援に携わられた飯野先生たちには申し訳ないが、なま物なので、保育園の先生たちと分け合って食べてしまった。このように被災者の方々の優しさに触れることが多くなった。まだまだ途上ではあるが、被災地にも少しの余裕が生まれてきたことを実感する。
- 【5月29日(日)】午前10:30 聖餐式。8名出席。この日帰る雨宮春子さんも出席。ここでの説教は難しい。震災を意識するなというのは無理な話しだ。かといって、外から来た人間が悟りきったかのように語るのも失礼だ。みんなで悩もう、語り合おう、主を信じて歩もう、結局はそれしかないのではないか。

今現在の支援活動の主な課題は次のようなものだと思う

- ・ 釜石神愛教会・幼児学園での礼拝と、信徒・職員・園児・園児家族への牧会的かかわり
- ・ 仮設住宅の世帯を把握すること。特に2割ほどを占める独居老人世帯。ある程度定期的に訪問する。世間話してよい。時と必要に応じた物資の配布。 ・ 残留支援物資の処分。
- ・ 神愛幼児学園の外部にボランティアの宿舎と支援の拠点を設置する事。

【5月31日(火)】午後1:30、管区の渉外主事とともに英国からアングリカン・コミュニオンの災害支援担当、アメリカ聖公会の同部署、シンガポール聖公会の担当部署から2名、計5名が来訪。こちらの支援活動の様子をお話する。現地に来て見ていただかなければ理解できないことが多い。日本国内でもそうなのだから、外国ならなおさらである。向こうの話を聞くと、日本の教会が、行政などと対等の立場で支援活動に関わり合えないのが不思議に思うらしい。現に、釜石でも私が行政や関係団体に行く時には、保育園から来たという方が信頼され、話しが早い。教会からという、同時に、怪しい者ではないという説明も加えなければならない。難しい話しだが、そういう空気を外国の教会には分かってもらう必要がある。2時間ほど話し、大船渡経由で戻っていかれた。同時刻、依子が仮設住宅に車を乗り付け、荷台をテーブルにして衣類等の配布を行う。あっという間に無くなった。今日始めて分かったことは、お年寄りに年金が支給される前の期間は財政的に苦しい方が多く、支援物資が喜ばれるという事。こんな事、考えもしなかった。また、季節の変化に応じて不足しているものもある。夏物の衣類、男性のステテコなどだ。これも、自分が着用しないので分からない事だった。きめ細かい支援が必要だと、改めて思う。取りに来た人の中には、1時間も話をしている人、お礼にといい、どら焼きを買ってきて下さった方もあった。感謝である。午後6:30、2回目の追悼の祈りを行う。今度は保育園の先生たちも多数出席。献花に代え一人一人が小さなろうそくを捧げ、点火し、祈る。ささやかだが、亡くなった人々を心に留め、悼む集いになった。最後に歌った聖歌のロンドンデリーで、依子のピアノ伴奏のキィが高く、私の声が途中でひっくり返って笑いを誘わなければ、もっとすばらしい祈りの機会になるはずだった。

○支援物資・ボランティアに関して

・ 各教会からの支援物資の送付は引き続き停止中です。

- ・ ボランティア登録カードは、各教会に配信され、教区のホームページからダウンロードする事もできます。支援活動が、長期となる事を予想していますので可能な時期をご登録下さい。

※ (ボランティア派遣に関する詳細は6号を参照ください。)

○教会の仲間たちの働きの紹介

- ・ 6月18日 19:00, 19日 15:00・19:00: 劇団一揆「東日本大震災チャリティーライブ」
成田真澄姉・成田敬憲兄(共に聖マーガレット教会信徒)が、キャスト・スタッフとして参加。

○支援室の活動

- ・ 5月25日～26日、大町司祭、釜石での今後の働きについて、打ち合わせのために訪釜。
- ・ 5月26日、「大震災市民ネットワーク・むすびば」による市民向け報告会に3名が出席。
- ・ 5月27日、「支援室会議」大町司祭、吉野執事、高橋力兄、表瑞木姉、尾崎武治兄が参加。主に、
①道内で出来る取組みについて。②幅広く行き渡る広報の仕方について協議。
- ・ 5月30日、池田司祭、海老原兄、派遣前オリエンテーション。
- ・ 5月30日～6月4日、表瑞木姉を仙台の日本聖公会震災支援オフィスに派遣。

○次回支援室会議: 6月8日(水) 午前10時～ 教区会館

今後とも支援室の働きのために協力者を求めています。どなたでも、是非、ご参加ください。

【震災支援室より】

- ◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。
ニュース定期便のバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページに入り、「東日本大震災について」(アカ字で表示)をクリックすると見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話: 011-561-0451、ファクス: 011-736-8377
Eメールアドレス: saigai@nsskk-hokkaido.jp